

地域の触れ合いを大切に、豊かな心を育む学校支援ボランティア活動

熊本県宇城市

活動名

不知火中学校区学校支援ボランティア

関係する学校

不知火小学校・不知火中学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	2人	210人	20年度	有
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所			開始年度
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

平成20年度の事業開始から、2人のコーディネーターが小学校に常駐し、協力と役割分担をうまく行うことで着実に事業が地域に根付き、活動内容も年々充実してきている。中でも小学校4-6年生のクラブ活動(年10時間)では「クラブ大活動」(編成1時間・活動2時間×4回・年間反省1時間)という名称で、地域協力者を講師に迎え開催している。毎年15クラブ程度開催し、そのうち12クラブ前後が学校以外の地域協力者による体験活動である。年間を通じ継続して実施することで、地域ボランティアと児童との繋がりのみならず、学校と地域との繋がりも深まっている。

また、年1回「しあわせふるさと祭り」を実施している。これは全学年を対象に地域ボランティアが講師となり20近くの体験活動を行うもので、午前中に学習成果発表会をあわせて行うことで、学校・家庭・地域の触れ合いを深め、それぞれの教育力を高める一日として地域に定着している。

これらの活動において学校と地域を繋ぐ大事な役割をコーディネーターが担っており、普段の活動で培った地域との繋がりを活かし、活動内容の企画立案にも深く関わっている。また、ゲストティーチャー等専門性の高い学習支援も年20回以上実施しており、講師探しに加え、担当教諭と地域ボランティアとの連絡調整にもコーディネーターが活躍している。更に、平成24年度より業間の時間(デコポタイム)を利用した「丸付けボランティア」を開始し、アシスタントティーチャーとして活動する保護者も増加し家庭との連携がより深まっている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・不知火の伝統継承、日本の文化に触れた体験活動
(伝統芸能や和太鼓、茶道・郷土料理等)
- ・学習支援ボランティア(ゲストティーチャー・アシスタントティーチャー)
- ・子供たちの登下校見守りボランティア
- ・読み聞かせボランティア
- ・丸付けボランティア(アシスタントティーチャー中心)

【実施に当たっての工夫】

- ・小学校に「コーディネーター室」を設けることにより、学校に地域ボランティアが気軽に立ち寄れるようになった。また、コーディネーターが専用PHSを所持しており、臨機応変な対応や日程調整ができています。
- ・月に一度、小学校との打ち合わせ会議をすることにより、より綿密で充実した活動内容、学校のニーズに合わせた地域ボランティアの活用につながっている。

事業を実施して

- ・この事業を開始し、地域と学校との距離が縮まり「学校に行きやすくなった」「自分の知識を活かして嬉しい」「これからも子供たちのためにボランティアを続けたい」との声ももらっている。また、事業を進めるにつれて保護者の方との繋がりも深まり、「学校に行き、子供の様子が分かり嬉しい」と言われることも増えてきた。

その他

- ・年度末に「お礼の会」を設け、ボランティアの方々との絆の醸成を図っている。
- ・コーディネーターを中学校区に2人設けることにより、地元のネットワークを最大限活用することができ、学校・家庭・地域の更なる連携協力を進めている。また、県主催の研修会の他、市独自の研修会への出席や先進地への視察など、多岐に渡りコーディネーター自身が積極的に外向き情報収集に努めるとともに、資質の向上に努めている。



硬筆補助の様子



クラブ大活動での様子

参考URL

<http://www.city.uki.kumamoto.jp/>